

「タヌキさんがやって来た。」

作 山田裕幸

【登場人物】

タヌキさん  
高橋久美子  
高橋今日子  
看護士

舞台は高橋久美子が入院している、巨大病院の病室である。  
病室は1・2階に位置し、街並みが一望できる。

病室から外を見ている久美子。

リンゴを剥いている姉の今日子。

久美子 天気、いいねえ。

今日子

・・・。

久美子 外に出てみたいな。きっと、気持ちいいんだろうな。  
私の分まで吸い込んでね。春の空気。

今日子 そうする。

久美子 でも、ただの空気なのに、なんで季節でそのにおいが  
違うんだろ。春には春の、夏には夏の、秋には秋のにおいがあるでしょ? 冬には冬の匂いがあつて。

今日子 春が好きなの?

久美子 うん。だけど・・・私に届くにおいと、私じゃない誰かに届くにおいって、同じにおいなのかな? それとも、微妙に違うのかな?

今日子 嗅覚つて、生まれ育った環境で変わるんだって。前に

タヌキさんがやって来た。

タヌキさんがやって来た。

テレビで観たことがある。だから日本人がいいにないだとしても、外国人の人には、不快に感じるものもあるって。

久美子 例えばどんなにおい？

今日子 鰹節とか、松茸とか。ヨーロッパの人には、悪臭になつちやうみたいだよ。

久美子 ふうん。

今日子 でも、そうだよねえ。人はいつたい、同じにおいを感じているのか。

久美子 時々そんなことを思うんだ。全然違っていたらどうしよう、とかね。

今日子 でも仮に違っていても、それを確認できないよね。

久美子 私は私以外の別の人にはなれない・・・ねえ。

今日子 なに？

久美子 旦那さんと結婚する前、何人の人と付き合った？ 何人？

今日子 そうだなあ・・・3人くらいかな。

久美子 くらいくて？

今日子 付き合つたのか、付き合つてはなかつたのか、微妙な人もいて。

久美子 どうして別れたの？

今日子 そりや価値観が合わなかつたり。

久美子 例えばどんな？

今日子 ・・・ 例えれば、すぐ疲れていて、駅からタクシー乗つちやおう！って思たとするでしょ。そういうとき、いや、こんな贅沢はしたらダメでしょ、とか言われたり・・・

久美子

そういうこと？ 價値観の違いつて。

今日子

あ、だから、例えばさ、家族の誕生日だから、そつちを優先するねって言つたら、突然、不機嫌になつたり。

久美子

別れて正解だよ。

今日子

あくまで例え話だよ。

久美子

いいつて、嘘つかなくつて。

今日子

・・・あ、うん・・・

久美子

そつか。じやあ旦那さんとは合ううんだね。そういう価値観が。

今日子 喧嘩もするけど、一緒にいて楽なんだよね、やつぱり。

久美子

愛か。それが愛なのか。

今日子

そうなのかな。

久美子

儂いね。

今日子

儂い？

久美子

関係っていうのは、いとも簡単に、終わつたり、壊れたり・・・

今日子

死ぬまで愛し合う夫婦だつているよ。

久美子

でも、必ずどちらかが先に死ぬよ。その瞬間からは、ひとりぼっち。

今日子

でも亡くなつたつて、心の中に、いる。

久美子

心の中にいる・・・か。

今日子

・・・。

久美子

お母さんも？

今日子

もちろん。

タヌキさんがやって来た。

久美子

あんまり覚えてないからなあ、私・・・優しくなつた？コウタくん産まれて。

久美子 誰が？  
今日子 そんなことないよ。いつもイライラしているし、振り回されてばかりだし、自分のやりたいことなんて何もできないし、ご飯の後は、そこらじゅうに、食べかすが散らかっているし。

久美子 でも、そういうすべてが、お姉ちゃんの身体を満たすのかも。

今日子 子供は遠慮がないから。

久美子 母親か・・・私には想像もできない。

今日子 私だつて・・・まさか自分が母親になるだなんて、今でも時々不思議。

久美子 お母さんのこと話してよ。

今日子 ・・・熱が出たときね、とびきりおいしこどんを作ってくれたな。

久美子 ふーん。

今日子 幼稚園の頃、パンツはいたままプールで泳いでいたら、笑いながら「パンツは脱いで水着は着るのよ」つて・・・

久美子 ・・・記憶と記録って何が違うんだろ。記録は写真とか、ビデオとか？・・・記憶は・・・

今日子 頭の中に残る、私の頭の中に。

久美子 記憶はいつかなくなるもの。その形は、常に変化する。

今日子 だけど、記憶は、記録以上に鮮明に思い出されることもあるんじゃない。例えば、ラジオから流れる音楽、夕方の町に漂うにおい、ふと語られる言葉、そういうものがきっかけで、思い出されるもの。自分の心を搖さぶるの。

タヌキさんがやって来た。

久美子 この瞬間もどこかに残る？お姉ちゃんの記憶の中に。

今日子 もちろん。

久美子 だけど忘れるよね。

今日子 それは未来の私にしか分からない。

久美子 そうだよね。忘れないと、新しいことは入ってこない。

今日子 何だか、難しい哲学のお話しをしているみたい。

久美子 私はただ、私のことが、世界のどこに残るものか興味があるだけ。

今日子 ・・・。

久美子 お母さん、私がコウタくらいの時に亡くなつたんだね。

今日子 うん。

久美子 つてことは、コウタも、今のこと、みんな忘れちゃうのかな。

今日子 どうかなあ。覚えていることもあるでしょ。

久美子 私もひとつだけなら。

今日子 どんな記憶？

久美子 ・・・花火大会の帰り、橋の上から身を乗り出して川を覗いていたら、履いていた下駄が脱げて川へ落ちやつたの。下駄がすーっと、闇に吸い込まれていった。あー、と思っているうちに、下駄はどこかへ消えてしまったの。

今日子 ・・・。

久美子 覚えていない？前にお父さんに聞いたたら、筑波の大学に勤めていた頃、そんなことがあつたって。お母さんが亡くなる前、家族みんなで出かけたみたい。だから、あの川を覗いていた私の後ろには、亡くなる直前

タヌキさんがやって來た。

のお母さんがいたんだ……お母さん、下駄をなくした私に何て言つたのかな。「ダメじやない」とか、「あーあー」とか、言つたのかな。え? 覚えてないの?

今日子 ・・・うーん、何となく・・・

久美子 もう・・・

今日子 ちよつと見てくるわ。コウタ。あんまり放つておくのも悪いし。

久美子 すっかりアイドルだね、コウタ。入院してる患者さんも、明るい顔つきになるし。

今日子 ・・・そうだね。

と言いながら、カーテンの向こう側に消える。  
どこからか、男がそっとやつてくる。

いわゆる浮浪者と呼ばれる男だ。

久美子、男に気づく。

久美子 (驚いて) 誰?

タヌキ はい?

久美子 誰?

タヌキ 私ですか。

久美子 ええ。

タヌキ シノザキです。

久美子 シノザキさん?

タヌキ 突然、すいません。

久美子 どちらのシノザキさんですか?

タヌキ 怪しいもののじや、ありませんから。

久美子 怪しいんですけど。

タヌキさんがやって來た。

タヌキ そうですか？

久美子 ええ、十分。私に何か用？

タヌキ すいません。驚かせるようなまねをして。

久美子 驚きました。

タヌキ 迷つたんですよ、私も。こんな勝手なまねをして、果たして許してもらえるかなって。

久美子 はあ。

タヌキ でも、これには訳がありまして。

久美子 どんな訳ですか？

タヌキ まあ、その辺はゆつくりとお話しします。とりあえず、イカでも焼きましょうか。

久美子 イカ？

タヌキ ええ、

久美子 でもどうやつて？

タヌキ 七輪、持つてきました。

久美子 七輪？

タヌキ お嫌いですか、イカ。

久美子 嫌いじやないけど、今はちょっと・・・

タヌキ どうして？

久美子 それに、こんな狭い部屋で焼いたら、病院中に、においませんか。

タヌキ そうか、そうですよね。

久美子 ええ、きっとそう。

タヌキ ジやあ、他に何か焼くものって、ありませんか。

タヌキさんがやって來た。

久美子 他つて？

タヌキ 秋刀魚とか、ハマグリとか、

久美子 海のものが、お好きなのね。

タヌキ 何でわかつたんですか？

久美子 とにかく、今、ここで何か焼くのはやめませんか。

タヌキ そうですか。残念だなあ。

久美子 お茶でもどうですか。

タヌキ お茶ね。

久美子 いれましようか。

タヌキ 私がいれます。せめて、このくらいやらせてください。

久美子 そうですか。

タヌキ どうぞ、座つていてください。

久美子 わかりました。じゃあ、お願ひします。

タヌキ 分かりました。

タヌキ、お茶を入れはじめる。

タヌキ もうどのくらいなんですか？入院されて。

久美子 （はつとして振り返り）もう9ヶ月になっちゃいました。

タヌキ そうですか。

久美子 ええ。

タヌキ 家は近いんですか。ここから。

久美子 車で30分くらいですかね。

タヌキさんがやって來た。

タヌキ そうですか。

久美子 隣の隣の町に住んでいます。

タヌキ 失礼ですけど、おいくつですか。

久美子 ・・・ 23歳です。

タヌキ お若いんですね。はい、お茶。（と久美子にお茶を渡そうとする）

久美子 私は・・・いま、お水しかダメだから。ゴメンナサイ。

タヌキ ああ、そうでしたか。

久美子 どうぞ、飲んで。あなたが。

タヌキ すいません。じゃ、お言葉に甘えて・・・

タヌキ、お茶を飲む。

タヌキ あ、肝心なことを訊くのを忘れていました。お名前、何とおっしゃるんですか。

久美子 名前、ですか。

タヌキ ええ。

久美子 高橋です。高橋、久美子。

タヌキ 久美子さんか。

久美子 ええ、高橋久美子。

タヌキ おつといけない。質問ばかりしてしまいました。

久美子 いいんです。

タヌキ もつと警戒されると思っていましたが。いきなり私みたいなものが訪ねてきたりしたら。

久美子 警戒していないっていつたら嘘になりますけど、でも、好奇心もわいてきたので、お相手する興味の方が

ちよつとだけ勝っちゃいました。

タヌキ なるほど。

久美子 では、シノ、シノ、

タヌキ シノザキです。

久美子 シノザキさん。お話しを。

タヌキ はい？

久美子 ここに来た訳を。なぜあなたは、ここへ来たの？

タヌキ ここから何が見えます？

久美子 ああ・・・見てのとおり、街が見えます。学校、工場の煙突、行き交う車、山、デパート、駅、図書館、グラウンド、野球場、公衆電話、原っぱ・・・

タヌキ あそこに、公園が見えませんか。

久美子 公園？

タヌキ ええ、あそこ。

久美子 どこ？

タヌキ ほら、あそこ。

久美子 ああ、ありますね。公園。公園がどうかしたんですか。

タヌキ これを。

タヌキ、双眼鏡を久美子に渡す。

タヌキ どうぞ、覗いてみてください。

久美子、双眼鏡を覗き、

タヌキ 公園を見てください。

タヌキさんがやって來た。

久美子 えーっと、公園、公園・・・ああ、見えました。公園。

タヌキ 何が見えますか？公園に。

久美子 犬を連れた老人、水の出でいない噴水、舗装された道・・・

タヌキ その先に・・・小屋のようなものがあるでしょ。青いシートに囲まれた、小屋のようなもの・・・

久美子 ああ、ありますね。

タヌキ はい。

久美子 あれはなに？

タヌキ いわゆる、ホームレスと呼ばれる人たちです。

久美子 ホームレス・・・

タヌキ あそこには、色々な人がいます。実にいろいろな人が。

久美子 へー。

タヌキ 私はテツヤっていうんですが、あそこでは「タヌキ」って呼ばれていきました。

久美子 タヌキさんか。

タヌキ ええ。一応、あの公園のホームレスにも、ベテランというか、リーダーのような方がいましてね、その人、クロスマさんって名前なんですが、クロスマさんに最初に名前を訊かれたとき、なぜか口ごもっちゃつたんですよ。そしたらクロスマさん、「じやあタヌキでいいや」って。どちらかつて言えば、キツネじやないですかって言つたら「名前なんてどうだつていいんだよ」って。それからタヌキ、タヌキって呼ばれてました。

久美子 タヌキさんか。じゃあ、タヌキさんは、あそこにお住まいだつたんですね。

タヌキさんがやって來た。

タヌキ

住んでいたというか、確かに住んではいたんですが、まあ色々と複雑な事情がありまして。

久美子 それでなぜ私のことを？

タヌキ 不快に思われるかもしだせんが、ここまで來た以上、告白しますと、私、毎日あそこから、こいつでこの病院の窓を見るのが日課でした。駅前の量販店で498円で売つていたものですが、これが意外にく見えるんです。そしたら、あなたに出会つた。窓の外を見ているあなたを発見した。別にその、変な意味じやなくて、その、あなたが気になつた。それからといふもの、私は毎日、こいつであなたの姿を見ながら、会話を楽しむようになつた。「おはよう」「調子はどうだい」「もうスグ昼食の時間だね」「もう夕方だね」「おやすみ」「また明日も会いましょう」

久美子 ・・・

タヌキ ゴメンなさい。気持ち悪いですよね。こんな人。

久美子 ・・・

タヌキ ただ見ているだけじゃと思って、ここに記録も残してきました。いつかあなたの役にたつかもしれないと思って、ここに記録を。これです。（手帳を取り出す）

久美子 何を記録してあるんですか。

タヌキ 例えば、10月28日、天気晴れ。9時32分、鼻をかむ。パジャマA。10月29日、天気曇り。パジャマC。同日12時24分、来客。お見舞いだろうか。16時51分、鼻をかむ。

久美子 これは？

タヌキ パジャマBです。

久美子 そうですか。

タヌキ こういう情報はカルテなどには記載されない種類の

タヌキさんがやって來た。

情報だと思いまして。だからこうして、私があなたの毎日を、記録として残しておこうと、毎日、この病室を見上げていたんです。

久美子  
・・・

タヌキ やつぱり気持ち悪いですよね。

久美子 いいえ。私のこと見てくれている人ってやつぱりいるんだなって思います。

タヌキ 大丈夫。私がずっと見ています。記録もここに残っている。大丈夫です。

久美子 そう言つていただけると、とても嬉しいです。

看護士がやつてきた。

看護士 (声のみ) おはようございます。

久美子 隠れて！家族以外は、病室に入つてはいけない約束なの！

タヌキ ええ。わかりました。

タヌキ、隠れる。

看護士 ダメじやない、寝ていなくちや。

久美子 すいません。

看護士 はい、じゃ、これ。体温、測つてね。

看護士、体温計を久美子に渡す。

タヌキさんがやって來た。

看護士 あれ？お姉ちゃんは？

久美子 何か、コウタ見に。

看護士 あら、そう。まだ今日、会ってないな。

久美子 そうですか。

看護士 彼、結構、イケメンよね。将来、楽しみだわ。

久美子 そうですか？

看護士 今、いくつだっけ？

久美子 あ、23歳。

看護士 ジやなくて、コウタ君。

久美子 ああ・・・5歳です。

看護士 一番可愛い時期じゃない。あと13年で18か・・・

久美子 あ、何でもない・・・うふふ・・・

看護士 あの、外、出たらダメですか？

久美子 どうだろね。それは、またあとで先生に訊いてみて。

久美子 少しでいいから、春のにおいをかいでもみたいんです。

看護士 そうだねえ。

計測の終わった音。

久美子 はい。（体温計を渡す）

看護士 ・・・熱はないね・・・

久美子 よかつた。今日は何だか気分がよくって。

看護士 そう。じや、また後でね。

看護士、出て行く。  
タヌキ、現れて、

久美子 よかつた・・・見つからなくて。

タヌキ コウタ君で言うんですかあ。お姉さんの息子さんですよね。

久美子 ええ、母は、私が5歳の頃亡くなつたんですね。だからお姉ちゃん、気を遣つてくれて。私が寂しくないようについて。毎日、来てくれるんです。お父さんも、仕事、忙しいみたいだし。

タヌキ ええ、ええ。

久美子 父は大学で働いています。鉱物っていうんですか？何だか石みたいなやつの研究をしているんです。

タヌキ ほう、ほう。

久美子 娘の私には、いつたい何がそんなに面白くて研究しているのか、さっぱりわかりません。

タヌキ そうですか、そうですか。（と大げさにうなづく）

久美子 興味あるんですか？

タヌキ だつて、謎がようやく解けたんです。の方はたぶんお姉さんなんだろなあとか、お母さんは、なぜ来ないのかなあとか、何をされている方なのかなあとか、想像は膨らむばかりで・・・病室を眺めながらあれこれ想像はしていたのですが、今、この瞬間、ようやく解明されました。

久美子 そりや、よかつたですね。謎が解明されて。

タヌキ 感激です。

久美子 うん。

タヌキ ・・・でも、あの看護士さんに一言言えば、私なんて

タヌキさんがやって來た。

タヌキさんがやって來た。

すぐにここから追い出されたでしょ。変な人がいますつて。なぜ、そうしなかつたんですか。

だつて、もう少しお話ししてみたかったから。

久美子 そうですか？

久美子 だから、お話ししましようよ、ここで、ふたりで。せつかくだから、楽しいおしゃべりを。

タヌキ そうですね、そうしましょうか。

どこからともなく、楽しきな音楽が聞こえてくる。

タヌキ、その音にあわせ、ダンスを始める。

ダンスが終わる。

久美子 今日はとても気分がいいな。

看護士 やつてくる。

看護士 あれ？

看護士、タヌキの方を指差し、近づいていく。

看護士 あれれれれ・・・

久美子 ど、どうしましたか。

看護士 何だ・・・シミか・・・いや、ほら、この壁にシミがあるでしょ。

久美子 （タヌキのことじやないとほつとして）ああ、ありますね。

看護士 （笑い出し）思い出しちやつた。

久美子 どうしたの？

タヌキさんがやって来た。

看護士

いやね、この間、サラダ買つて食べたんですけど、ドレッシングあるでしょ？こうやつて両側を指で持つて、半分にパキつて折るやつ。

久美子

ああ、ありますね。

看護士

それでなんか妙に硬いから、折れなくつて、おかしいなあと思つて自分の方に向けて力入れたら、その瞬間にパキつて折れて、ドレッシングが、イタリアンだつたんだけど、顔と後ろの壁にべちゃーつて飛んでね、もう大変だつたんですよ、ドレッシングが。だいたい何で最近、コンビニのサラダ、ドレッシングが別売りなわけ？ そう思わない？ だって、サラダにはドレッシングがつきものでしよう？ それは例えば、太陽は東から昇るとか、ルート2は無理数とか、海水は塩辛いとかと同じで、サラダにはドレッシングでしょ？ なんで初めからセットでつけておかないのかしら。もし買い忘れでもしたらどうするのよ。さあ食べようと思つたらドレッシングがないだなんて！ 悲劇よ、悲劇。シェイクスピアも顔負けよ。自慢じゃないけど、私、自炊なんてほとんどしないから、せめてサラダだけは毎日食べようつて、これでも気を使つてるの。家じやお湯を沸かすくらいで、台所なんてほとんど使わないし、第一、忙しすぎるのよ。夜勤だつて週に2回あるし、休みの日はほとんど寝て過ごすし・・・気がつけば夜で、ああ今日もどこにも出かけなかつたなつて落ち込んだりする。ここだけの話だけど、実は・・・家の冷蔵庫に、いつ買ったかわからぬチーズがひとつ入つていて。もう怖くて見て見ないふりしているんだけど、処分しようとは思つてはいるんだけど、だけどつい見て見ない振りをしてしまつて、そのたび、何て私は弱い人間なんだろうつて、いつたい、いつになつたら、冷蔵庫の中のチーズにこの私は向かい合えるんだろうかつて、夜寝る前に、ひとり寂しく物思いにふけることもある。ストレスは溜まる一方で、つい食べることで解消しちやうの。

久美子

・・・大変ですね、いろいろ。

タヌキさんがやって來た。

看護士 わかつてもらえる？

久美子 （笑つて）高城さんは、寮にお住まいですか。

看護士 ええ、そうよ。朝起きて、着替えて、そのまま病院来て、仕事して、帰つて、サラダ買つて、シャワーして、寝るの。

久美子 なかなか、タイトな日常ですね。

看護士 そう。タイト過ぎて、男性と知り合う暇もありやしない。

久美子 あはは。

看護士 あはは。・・・あとで先生、説明に来るから。

久美子 いやだな、あの検査。

看護士 我慢、我慢。

久美子 だつて痛いんだもん、あれ。

看護士 治さなくちゃ。

久美子 （看護士の顔を見て）

看護士 なになに。

久美子 なんでも。

看護士 ・・・じゃ、また後でね。

久美子 はあい。

看護士、出て行く。

タヌキ 実は私もあるんですよ。

久美子 ドレッシングですか？

タヌキ ケチャップです。

タヌキさんがやって来た。

久美子 ああ。

タヌキ マスターードも。

久美子 ホットドック！

タヌキ いえ、フランクっていうんですか？ソーセージ。

久美子 そっちか。

タヌキ フランクって、どういう意味でしょう。

久美子 フランクって、フランクフルトって言うんでしょ。

タヌキ フランクフルト、そうですね。

久美子 だつたら、あれですよ、地名ドイツの。

タヌキ そつか。ドイツといえば、ソーセージですものね。

久美子 でしょ？

タヌキ 行つたことがあります？ドイツ。

久美子 ないです。あります？

タヌキ ないです。

久美子 そうですか。

タヌキ というか、海外には一度も行つたことはありません。

久美子 そう。私が行つたことがあるのは、ハワイ、アメリカ、  
あ、ハワイもアメリカですけど、一応、アメリカ本土  
つて意味です。それからカンボジア、韓国・・・あと、  
オーストラリア。

タヌキ いろいろ、行かれたんですね。

久美子 オーストラリアは中学の時の修学旅行で。ハワイは、  
お姉ちゃんの結婚式。アメリカは、高校生のとき、ホ  
ームステイで。カンボジアはアンコールワットに。ど  
うしても行きたくて、連れていつてもらつたんです。  
タヌキ どうでした？アンコールワット。

タヌキ

タヌキさんがやって來た。

久美子 よかつたですよー。やつぱり實際に行つて見ないと  
分からぬことつて、たくさんありますよね。

タヌキ あと、韓国だ。

久美子 ああ。韓国は二十歳のころ。

タヌキ ご家族で？

久美子 いえ、まあ、男の人と。

タヌキ それはそれは。その方とは今？

久美子 別れました。韓国から帰つて一ヶ月くらいして。今考  
えると、最後の旅行でした。

タヌキ 失礼しました。

久美子 いえ、いいんです。

タヌキ それは、その、旅行が原因だつたんでしょうか。ほら、  
韓国つて、辛いものがありますでしょ？キムチとか。  
食べるもののつてだから、辛いものが苦手だつ  
たとか。

久美子 いえ、辛いものは一人とも大好評で、だからその旅行  
のせいじやなくつて、やつぱりそういう運命だつた  
んでしようね。

タヌキ 運命ですか。

久美子 だけど、内緒のつもりが、父親にバレちゃつて、すぐ  
怒られました。

タヌキ そりや、結婚前の女性ですからね。男性と二人でご旅  
行というのは、特にお父さんはあまりいい顔、しない  
でしよう。

久美子 やつぱりそういうものですか。

タヌキ そうですよー。

久美子 私もめずらしく反省しました。きちんと説明すれば  
よかつたなつて。

タヌキさんがやって來た。

タヌキ そうですね。

久美子 タヌキさんは、そういう人、いないんですか？

タヌキ そういう人というと？

久美子 奥さんとか、恋人とか。

タヌキ ・・・妻がいたけど、出て行きました。

久美子 そうですか。

タヌキ 子供はもう、小学生になるはずです。

久美子 お子さんもいるんだ。

タヌキ ええ。

久美子 お一人ですか。

タヌキ はい。女の子です・・・すいません、こんな話し。

久美子 いえ、訊いたのは、私の方ですから。

タヌキ ちようどこのくらいの季節でした。冬が終わって、春になろうとするこの季節です。家に帰ると誰もいない。よく見ると、机の上に一枚のメモがあつて「出て行く」と。

久美子 突然？

タヌキ はい。

久美子 それまでそういう話は一度も？

タヌキ ええ、一度も。

久美子 そんなことって・・・

タヌキ あるんですねえ。まるでドラマか何かを見ているかと思いました。「出て行く」はないですよね。まあ「探さないでください」ってなかつただけ、よかつたのですが。

久美子 なんだ。

タヌキさんがやって來た。

タヌキ

それ以来、子供とも会つていませんし、いつたいあの時何が起こつたのか。

久美子

今も連絡は？

タヌキ

ありません。どこで何をしているのか、元気にしているのか、全然わかりません。

久美子

そうなんですか。

タヌキ

想像はつくんです。小学生の子供がいて、女一人で生きていくのはなかなか大変ですかね。

久美子

誰か他の男の人が一緒にいたんだ。

タヌキ

ええ。それしかないと私は思います。

久美子

ひどい！タヌキさんの他に好きな人ができたんだね。

タヌキ

たぶん。

久美子

それならそれで、黙つて出て行かないで、話せばよかつたのにね。きちんと。

タヌキ

そうですよね！私もそう思います。

久美子

味方です。断固、味方、私、タヌキさんの。

タヌキ

ありがとうございます。

久美子

そつか。だからあの公園で暮らし始めたんだね。奥さん出ていちゃって、ひとりぼっちになつて。

タヌキ

まあ、色々と複雑なんですけど、でも私の場合、仕方なくというよりも、むしろどちらかと言えば、進んで裸になつたというか、いや、例え話しですよ。決して、服を脱いだわけでは。

久美子

わかりますよ。

タヌキ

それでね、まあ何というか、色々失つて、ひとりになつて、何もない場所で、空を見たり、星を見たりしてね、これまで自分は何をしてきたんだろうかって、思つたんですよね。ただ、がむしゃらにやつてきて、脇

タヌキさんがやって來た。

目もふらず、遠回りもせずにやつてきた。それがベストな人生だと思っていた、疑いもせずに生きてきました。そんなとき、あなたに出会つた。この病院の存在をしつた。色々な人が、色々な人生を歩いて、ここに行き着いていると思うと、何となくですが、自分が何をやればいいのか、どうすればいいのか、ぼんやり見えてきたような気がしたんです。それを希望と呼んでいいのなら、たぶん私にとつて、はじめてはつきりと感じられた「希望」だったように思います。

久美子 希望ですか。希望。

タヌキ 何でかなあとと思いましたが、分かりませんでした。

久美子 何について？

タヌキ 妻が出て行つた原因というか、理由についてです。

久美子 そうだねえ、何でだろうね。

タヌキ なぜある日を境に、好きだったものが、好きではなくなるのでしょうか。気持ちが離れるのは、なぜでしょう。なぜ久美子さんはその方とお別れされたんですか。何か、理由のようなもの、あつたんでしょうか。

久美子 それは催眠術を解かれたつていうのかな。ある日突然、お互いの心から、お互いがいなくなつてしまつたの。

タヌキ 恋は催眠術だと？魔法ではありませんでしたか？

（笑つて）魔法でもいいですよ。どちらでも。

久美子 ありがとうございます。それはその、おふたりとも同時に、そのように思われたんでしょうか。

久美子 どうでしようかね。気が付いたら、離れ離れになつていたんですね。

タヌキ ・・・それがお別れつてことなんでしょうか。久美子さんにとって。

久美子 わかりません。私、一人としか付き合つたことがない

タヌキさんがやって來た。

から。

タヌキ 人數が多ければいい、ということではありませんよ。ようは受け取り方の問題ですか、分からぬ人に分からぬし、分かる人には分かるんです。それが例え、一人だけだとしても。

久美子 そうですか。

タヌキ 久美子さんは、今、彼氏欲しいなあとか思わないんですね。

久美子 あんまり思わないですね。

タヌキ どうして？

久美子 何ででしょう。きっと優しい気持ちになれないような気がするからかな。人に優しい気持ちになれないと、自分で自分のこと、嫌いになりますからね。

タヌキ なるほど……確かにそうですね……

今日子 今日子が戻ってきた。

今日子 (驚いたように、久美子の顔を見る)

久美子 ……どうしたの……

今日子 ……何かいいことあつた……？

久美子 どうして……？

今日子 久美子の笑顔、久しぶりに見たから……

久美子 そう？

今日子 ええ。

久美子 きっとタヌキさんのお陰ね。

タヌキさんがやって来た。

今日子 ・・・ タヌキ？

久美子 ええ、そう。

今日子 タヌキは人を騙すんじやなかつた？

久美子 そうなの？

今日子 違つたつけ？ キツネだつけ。

久美子 コウタは？

今日子 ああ、何か熱っぽくつて、

久美子 それは大変！

今日子 だから今日は、帰るね。

久美子 わかつた。

今日子 また明日来るから。

久美子 うん・・・

今日子 じゃね。

久美子 行かないで。

今日子 やつぱり行かないで。私のお姉ちゃんでしょ？

今日子 駄々こねないで。

久美子 いいじやない、駄々こねても。私だつて、そばにいて  
欲しいよ。コウタと同じように。

今日子 まだ5歳になつたばかりよ。一人じやまだ何もでき  
ない年齢。

タカシさんにお願いしてよ。

今日子 仕事があるのよ。

久美子 仕事なんて早退すればいいでしょ。会社だつて、子供

タヌキさんがやって来た。

が熱が出れば、ダメとは言えないはず。

だけれど、こうして私が見ていられるわけだから、仕事だつてしていないし。

久美子 それは、仕事だからって、押し付けられてるだけ。今の時代、男だつて平等に世話をすべきもの。少しでも女性の負担を減らすべきよ。

今日子 今日子 どうしたの？

久美子 久美子 だつてお姉ちゃんはさ、ずっとそばにいるから、大丈夫だからって、そんな風に私に言うけど、でも一番大切なのは、私じゃないでしょ？一番大切なのは、自分でしょ？自分の家族と子供でしょ？ 私には、お母さんの記憶がないの。

今日子 今日子 行くね。

久美子 久美子 ・・・ごめん。大丈夫、私、大丈夫だから。少しだけ、駄々をこねたかつただけ・・・

今日子 今日子 いいの。そういう時だつてある・・・

久美子 久美子 ・・・お姉ちゃん。

今日子 今日子 なに？

久美子 久美子 ありがとう。まだ私が小さい頃、料理も、洗濯も、まるでお母さんみたいにやってくれて、自分のやりたいことだつて、たくさんあつたはずなのに・・・ごめんね・・・お姉ちゃんが本当のお母さんになつたこと、とつても嬉しかつたよ。そしてとても誇らしい。

今日子 今日子 どうしたのよ・・・改まつて。

久美子 久美子 本当に、ありがとう。

今日子 今日子 ちよつとやめてよ・・・何よ・・・

久美子 久美子 一つだけ、言つておきたいことがあるんだけどさ、

今日子 今日子 うん。

タヌキさんがやって來た。

- 久美子 私、韓国、旅行行つたけど、何もなかつたから。私、まだ、その・・・男の人と、そういうこと、したことないから・・・
- 今日子 ・・・うん、わかつた・・・
- 久美子 そういうことだから。
- 今日子 ・・・
- 久美子 また明日ね。
- 今日子 また明日ね。
- 久美子 ばいばい！
- 今日子 うん。
- 今日子 行つてしまつた。
- 久美子 頭ではわかるんだ。もちろん。熱が出たら、お姉ちゃんはそばにいるべきだし、それは私のことが大切ではないって意味じゃなくって、ごく自然の行動だつてことは、もちろん頭ではわかるの。駄々こねたつて、満たされるはずないって、頭でわかっているんだけど。
- タヌキ ・・・わかります。
- 久美子 あのさ・・・
- タヌキ はい・・・
- 久美子 気持ちいいの？その、男の人と、その・・・
- タヌキ ・・・
- 久美子 気持ちいい？
- タヌキ えつと・・・人によるんじやないでしようか。
- 久美子 一応、年頃の女の子だからさ、興味あつてもおかしく

タヌキさんがやって來た。

ないでしょ！

そうですね、おかしくありませんね。

こんなこと、誰にも訊けないでしょ。

タヌキ ええ、まあ。ですが、私に訊くのも、どうかなと思いませんけど。

久美子 タヌキさんしかいないんだから、答えて。気持ちいい？

タヌキ 私はその、男性なので、女性の感覚つていうのは、説明するのは難しいものがあります・・・

久美子 説明してよ。何が楽しいのか、どんな風なのかとか。

タヌキ ですから・・・その・・・

久美子 ・・・冗談よ、冗談・・・

タヌキ は？

久美子 ごめんなさい。冗談です。

タヌキ ・・・冗談か、そうですよね。

久美子 ・・・私だつて初めて会つた人に、こんな質問、するわけないじやないですがあ。

タヌキ そうですよね、そりやそりや。

久美子 そうですよ、しないですよ。するわけ、ないじやないですか。もう・・・タヌキさんつたら・・・何言つているんですか・・・もう・・・

タヌキ それであの。

久美子 はい。

タヌキ どうお考えですか。だつてほら、何か変でしょ？看護士さんだつて、お姉さんだつて、その私のことを、そ

タヌキさんがやって來た。

久美子 ああ・・・

タヌキ 話す用意は、それなりにできてはいます。

久美子 タヌキさんはさ、

タヌキ はい。

久美子 今、何がしたい?

タヌキ 私ですか? そうですねえ・・・したいことですか・・・?

久美子 娘さんに会いたい?

タヌキ ハルカっていいます。

久美子 ハルカちゃんに、会いたい?

タヌキ でも、もう二度と会うことはできないんです。この手に抱きしめることは、もうできないんです。

久美子 そんなことは訊いてないよ。会いたいの? 会いたくないの?

タヌキ 会いたいです。もちろん、会いたいです。

久美子 会えなくて、苦しい?

タヌキ 苦しいです。

久美子 抱きしめられなくて、苦しい?

タヌキ 苦しいです。

久美子 そつか。それを私に聞いてもらいたくて、わざわざ來たんだね。

タヌキ ・・・違います。

久美子 じゃあ、なぜ來たの?

タヌキ それをこれから説明したいと思うんです。いいですか? 少し長い話になるかもしません。

久美子 どのくらい?

タヌキ 私の場合、2時間くらいでした。

久美子 私の場合って？

タヌキ 私のところには、ヤナガワさんという女性の人がいらっしゃいました。そのときが、ちょうど2時間くらいでした。

久美子 原因を考えるの。なぜ私なのつて。  
タヌキ そうでしょう。まだあなたは若い。

久美子 原因が分からなって、これほど苦しいものなのね。まるでタヌキさんの奥さんが出て行つたことみたいに・・・原因が分からなすことって、こんなに苦しいんだって。

タヌキ そうですね。確かに苦しいかもしません。

久美子 海外にも二度と行けないんだ、結婚もできないんだ、子供も産めないんだあ、つて思うと、そういう可能性のひとつひとつを残念に思うのね。具体的に思うの。だから、今の誰を見ても、その人が、その人の可能性のすべてに気づいてないんじやないかって、それが悔しいの。何とかして、伝えたくなるの。わかるかな？

タヌキ 少し、

久美子 わかるかな。

タヌキ 少し。

久美子 もつと、色々なことがしたい！まだ死にたくない！何で私なの！（窓に近寄り）どうして、あのじやなくて私なの？

タヌキ 久美子さん・・・

久美子 死にたくない！死にたくないよ。

タヌキ ・・・

タヌキさんがやって來た。

しばし、間。

久美子 その話は楽しい？タヌキさんが話そうとしているお

話。2時間、かかるつてお話。

タヌキ 楽しいかどうかは、その人によると思します。楽しい  
つて思えば楽しいし、悲しいつて思えば、悲しい話に  
なります。でも私は、なるべく楽しく聞いて欲しいか  
ら、ずいぶん練習してきました。話す順番も、話すス  
ピードも、抑揚のつけかた、単語の選択、声の大きさ、  
適切な身振り手振り、繰り返し、練習してきました。

久美子 ・・・ありがとうございます。

タヌキ できれば、今度、久美子さんが話す時の参考にしてい  
ただければと思いまして、

久美子 私も話すの？

タヌキ ええ。人は誰もがいつかこの話を、誰かに伝えなくて  
はならないのです。それがいつになるかは、また別の  
話ですが。

久美子 へえ。少し楽しみになつてきました。

タヌキ よかつた。そう言つていただけると、タヌキは何だ  
か、とつても嬉しいです。

久美子 いえいえ、こちらこそ。私のところに来ててくれて、よ  
かつた。発見してくれて、ありがとうございます。気持ちです。

タヌキ ありがとうございます。

久美子 それじゃあ、お願ひします。お話、聞かせてください。

タヌキ わかりました。

男、座つて、ノートを広げる。

どこから話し始めようか悩むが、意を決したように、顔を上げ、久美子を見る。

タヌキさんがやって来た。

久美子、タヌキさんの話を食い入るように聞く。  
久美子の表情は、やわらかく、美しい。

暗転。

あかりがつく。  
看護士が、一人たち、そのままの病室の片付けをしている。  
ふと窓の外を見る。  
そこには、平和そうな町並みが見える。

幕。